

「国際化推進プラン」 Shinshu-University Globalization Plan

信州大学は、急速にグローバル化する現代国際社会において、知の継承と新しい知の創造による“信州「知の森」”を基盤として、国際的競争力のある教育研究拠点の構築・強化を目指す。

これを実現するため、国際的通用力があり国際社会で活躍できるグローバル人材を育成するとともに、国際的に評価される世界トップレベルの研究を中核とした特色ある世界水準の研究を推進する。

また、留学生の受入拡大と日本社会への就業機会の拡大などに積極的に取組み、国際的な人材育成と異文化理解教育とともに、地域に在住する外国人と日本人とを有機的に結びつけ、多様性と協働をキーワードとして信州地域独自の発展を多文化協働という観点で推進する。

【国際的通用力のあるグローバル人材の育成】

世界に通用する質の高い教育体制を構築し、国際社会で活躍できる有為な人材を育成する。

① 世界の多様な文化・思想を受容しうる基盤の形成

- ・ 文化・歴史・言語などの共通教育を通じ、多文化理解を涵養する。

② 国際社会で活躍できる高度専門人材の育成

- ・ 社会人としての基礎的能力に加えて、語学力、情報収集能力、分析能力、異文化を理解する能力等に優れた人材を育成する。
- ・ グローバル社会で幅広く活躍できるコミュニケーション力、判断力、決断力、ネゴシエーション力、適応力などの実践的能力を持った人材を育成する。
- ・ 国際化社会に対応でき、国際感覚が涵養できる環境をつくる。(異文化サロン、交流イベント、アウェイ体験など触れ合う機会の増大)

③ 国際的通用力を向上させる教育課程と教育内容等の充実

- ・ 学位の国際的通用力を向上させる観点で教育課程を検討する。(GPA、ナンバリング、学年暦の見直しなど)
- ・ 英語等外国語による教育(講義、セミナー等)の拡充を図る。
- ・ 実践的な英語等語学教育により国際的なコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・ 諸資料(シラバス、履修手引きなど)の英訳化・多言語化、ホームページによる情報発信などを戦略的に進め、国際社会での視認性を高める。

【国際的な人材育成・人脈形成、異文化理解教育の拠点化】

意欲的で優秀な質の高い留学生、先進的な研究者との相互交流を活発化させ、国際的な人材育成・人脈形成、異文化理解教育の拠点となる。

① 外国人留学生、研究者の受入及び本学学生の留学、教職員の海外派遣の促進

- ・ 国際化時代、留学生30万人計画などを視野に入れた、外国人留学生・研究者の受入計画を促進する。
- ・ 本学学生の海外留学や教職員の海外派遣、海外からの留学生や研究者等の受入のための体制・環境を整備する。
- ・ 教職員の国際的対応能力及び組織力の向上のため、学内研修制度等の充実を図る。

② 国内外の大学との連携強化

- ・ 戦略的な協定校開拓と友好関係の強化、大学間ネットワークなどへの参加などを通じて重層的な交流ネットワークを構築していく。
- ・ 協定校とのダブルディグリー制度等の拡充、国際交流イベントの実施、学生・教職員の相互交流の推進などの活動を実質化する。

- ③ 地域社会が多様な文化をもつ外国人と共生できるよう、地域社会の国際化への積極的支援
- ・ 国際理解教育，異文化理解教育，留学生と地域住民との交流などを通じ，地域住民の異文化理解を促進する活動に積極的に協力する。
 - ・ 国際的広報活動（ホームページも含む）を強化する。
 - ・ 留学生ネットワークの構築を進める。

【世界水準の研究の推進】

国際的に評価される世界トップレベルの研究を中核として，国際化時代をリードしていく特色ある世界最高水準の教育研究拠点を形成する。

① 世界最高水準の研究基盤を基とした世界的先端研究拠点の構築

- ・ COI STREAMの中核拠点として採択された「アクア・イノベーション拠点」による研究・社会貢献の拠点を創り上げ，ファイバー工学や材料科学の研究を中心とした独創的研究を推進する。

② 先鋭領域融合研究群を軸とした国内外の大学・教育研究機関等との連携と研究ネットワークの形成

- ・ 強みや特色を持つ分野に研究力を結集し，世界に通用する高度な研究レベルの維持・向上を目指す。
- ・ グローバルな視野からの研究を加速するため，海外から著名な研究者を招へいし，研究者ネットワークを構築する。
- ・ 国内外の機関との受託研究，共同研究等の積極的な展開を行う。

③ 次世代の中核を担う研究者の育成

- ・ 国際性や専門性を備えた人材を多様な方法により採用・育成する。
- ・ 若手研究者を卓越した研究者に育成するための環境や人材育成システムを整備する。

④ 国内外における大学の存在感の向上

- ・ 国際的に評価の高い論文誌への投稿や国際学会等での発表などにより，国内外に向けて研究成果を発信する。
- ・ URA（リサーチ・アドミニストレーター）による支援体制を強化し，外部資金を戦略的に獲得するとともに，国際的な共同研究を積極的に実施する。